

意見書

公益社団法人日本青年会議所 関東地区 群馬ブロック協議会
2024 年度 会長立候補者 吉田 雄希

青年会議所に対する意見書

私が、青年会議所に入会したのが 2012 年でした。早いもので 11 年が経とうとしています。青年会議所は父が所属していたこともあり、聞いたことはあるが実際どのような活動をしているのか分からないまま青年会議所の門を潜りました。「青年会議所は最後の学校」という言葉を先輩諸氏より何度も耳にした事があります。私自身「最後の学校」という言葉を、最初は理解できないまま活動を行って来ましたが、仲間同士と経験を重ねることで言葉の重みや大切さを感じ、青年会議所運動の楽しさを実感して来ました。40 歳で卒業という年齢に縛りのある団体だからこそ、青年らしく「最後の学校」のやりがいや楽しさを感じ「明るい豊かな社会」を目指し邁進するべきだと考えます。

新型コロナウイルスの脅威に晒され 4 年が経った今、分類も第 5 類に引き下げられ私たちの生活様式も徐々に戻りつつあります。だからこそ新時代の先駆者として、私たちの住む地域の再生に尽くすべきだと考えます。住み暮らす群馬県は関東でも屈指の観光産業が盛んな地域です。コロナウイルスで激減した観光客も各地域で少しずつ戻ってきました。しかしながら、まだまだ完全とは言えません。多くの魅力を兼ね備えた観光産業がある、この群馬県を多くの方に訪れていただくべくメンバー一人ひとりが群馬県に誇りを持とうではありませんか。誇り高い意識が生まれれば、自ずと地域の活性化に繋がるでしょう。共に素晴らしい群馬県はもちろん、住み暮らす地域の再生に突き進みましょう。

昨今、群馬県内各地会員会議所や全国の青年会議所で課題となっているのは会員拡大です。まちづくり運動を実りあるものにするために必要不可欠なものだと確信しています。まちの明るい未来を考え行動する仲間を迎え入れることで、持続可能な社会の実現に向け、まちづくり運動を展開していくことができると考えます。だからこそ各地会員会議所メンバー一人ひとりが会員拡大の目的を理解するのは勿論のこと、青年会議所運動の素晴らしさや楽しさを感じ、組織全体で意識を高めることが重要です。私たちが目指す地域社会のあり方を実現させるためにも、地域の明るい未来を考え、まちづくりの先頭に立ち、地域への想いを共にする仲間を 1 人でも多く迎え入れましょう。

2012 年に入会以来、青年会議所メンバーと知り合えたことは奇跡であり、一生の宝物であると感じています。多種多様な職業や性格のメンバーの中で活動していくことは、自分自身への大きな発見や刺激になると感じます。もっとお互いのことを知ることで、自然と群馬県内全ての会員会議所で素敵な関係が構築できれば、1 人ではできないことも、多くの仲間となら乗り越えることができます。知り合えた奇跡を大切に、多くの仲間と楽しい青年会議所ライフを送りましょう。全ての仲間とともに笑顔を絶やさず切磋琢磨し、各地域での見本となり多くの方々に必要とされる群馬ブロック協議会を皆さんと一緒に作り上げて行くとともに、1 年間全力で突き進む事をお誓い申し上げ、意見書とさせていただきます。

公益社団法人日本青年会議所 関東地区 群馬ブロック協議会
2024 年度 会長立候補者 吉田 雄希